

中学校区におけるめざす子ども像

自らを律し、自ら学び続ける子

令和7年度 重点目標

「生徒、保護者、地域の『信頼に応える』魅力ある学校づくりの推進」 (1)学力向上 (2)不登校生対応 (3)特別支援教育 を3本柱に教育活動を推進する

「確かな学び」の現状

- ・全体的に、生徒は落ちついた学校生活を送り、静謐な環境で学びに向かっているが、一部生徒が集中できない時もある。
- ・「学力向上」は喫緊の課題であり、研修を充実させ授業改善を図る。令和6年度のチャレンジテスト結果において、前年度より改善傾向にあるが、学年や教科によっては課題が見られた。
- ・習熟度別指導や、学力定位層の放課後学習などを充実させる。

「豊かな心・健やかな体」の現状

校区が1小学校1中学校であり、人間関係が固定的になる傾向がある。そのことに起因する要素もあり、不登校傾向の生徒もみられる。誰一人取り残さない学びを推進し、不登校生の居場所を確保のためステップルームを設定して、学びの場を保障する。また、各種行事への取組を充実させ、成功体験を積み重ね、達成感を味わわせることで自尊感情を高める。家庭・地域との連携を図り、健康的な生活習慣の確立をめざす。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	基礎学力の向上	学習内容の定着と学習習慣の確立	●基礎学力の定着を図り、各種調査での下位層の生徒の割合を減らす。	各調査での正答率20点未満の生徒の割合を大阪府の平均以下にする。	・全国学力調査等の調査結果	年度末	△【全国学力調査】国語は正答率20%未満の生徒が府平均を下回ったが、数学は府平均を上回ってしまった。	△【1月チャレンジテスト】正答率20点未満の生徒の割合が大阪府の平均を下回る教科もあれば、上回る教科もあった。	○・課題を把握して次の成長につなげようとしている・上回っている教科もあるので、そこを伸ばしつつ苦手強化も上げていってほしい。・学ぶ楽しさを味わいかけている
			生徒が自主的に計画を立て、家庭で復習や課題に取り組むための家庭学習支援	各種アンケート調査での肯定的回答が70%以上、	・堺市学調 ・堺市学習・生活状況調査 ・学校教育アンケート		— 年度末に評価	△【保護者アンケート】「学校教育目標2勉強しよう！生徒も先生も」のお子さまの達成状況 65%	○・保護者へのアピール情報共有に取組んでいけばなおよい。きつと成果は出る・親も勉強しようと思います。
	授業改善	生徒が主体的に考える授業を展開し、思考力・判断力・表現力を育成する	授業において、意見を交流したり自分の考えを発表したりする機会を設定する。	各種アンケート調査での肯定的回答が70%以上、	・全国学力調査 ・堺市学習・生活状況調査 ・チャレンジテスト		— 年度末に評価	○【堺市学調】「グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決した」の肯定的回答が78.8%であった(堺市平均72.0%)	○・自分の意見を出せるのがすばらしい。・協働性が高まっている・生徒間のコミュニケーションが少しずつ向上
			数学科の少人数指導を充実させ、きめ細かい指導により言語活動を展開する。	・各調査結果で大阪府平均以上 ・「数学の授業がよくわかる」の肯定的回答が85%以上			△【全国学力調査】数学1.2年時のチャレンジテストより改善がみられる。4月実施のテストなので、習熟度別指導は始まったばかり。基礎学力が定着していない層へのアプローチを続ける	◎【9月チャレンジテスト】1年時からの数学の結果推移を見ると確実にアップしている。放課後学習会や2年時の本校独自のIT授業、3年からの習熟度別指導の成果と考えられる。	◎・少人数加配の効果もあり、よかったですと思います。・すごく学力が伸びた教科があるのですばらしいと思います。
		生徒用端末を活用した主体的な学習を展開し、問題発見力・課題解決力を育成する。	堺市学習・生活状況調査において肯定的回答が80%以上	・堺市学習・生活状況調査	— 年度末に評価	○【堺市学習・生活学習調査】「授業でPCなどを使って、ペアやグループで調べた内容や作成した資料を基に合う」1年:78.8% 2年:82.6%	○・主体的にできていると思います。・使い方が上達している・せいの授業が楽しいとか、分かりやすいという気持ちを高めるよう更に進めていけばよい		
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	規範意識を育み、他者と協力してよりよく生きるための力の育成	道徳の授業を充実させ、生徒の規範意識の向上を図る	各種調査での肯定的回答が90%以上	・堺市学調 ・堺市学習・生活状況調査 ・学校教育アンケート	年度末	◎【全国学調】「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」97.1%(全国95.9%)	◎【堺市学調】授業や活動の開始時間を守る1年:95.3%、2年:96%	◎いじめに対する意識が高い。規範意識が高い。・時間を守れる子が多い。いじめの定義を再確認。
			生徒が主体的に計画し、協力して取り組むことができる行事の設定	各種調査での肯定的回答が90%以上			○文化活動発表会・体育大会など生徒が主体的に協力していきいきと取り組めた	◎【保護者アンケート】「生徒は体育大会や文化活動発表会で意欲的に取り組んでいる」肯定的回答95%	◎文化活動発表会・体育大会を生徒自身が楽しんでいたと思います。
			成功体験を積み重ね、生徒の自己肯定感を高める	各種調査での肯定的回答が80%以上			◎【全国学調】「自分には良いところがあると思いますか」肯定的回答88.4%(全国平均86.2%)	△【全国学調】「自分には良いところがあると思いますか」1年:77.6%(市77.4)・2年:68.0%(75.8%)	○・もっと自己肯定感を伸ばしてほしい。・気にかかります。自尊感情向上へ、自己肯定感は大切だと思うので更に進めてください
	生活習慣の改善	基本的な生活習慣の確立	「家での7つのやくそく」を基本にして、生徒が安全や健康について考える機会を充実させる	・生徒会・衛生委員会の啓発 ・各種調査での肯定的回答が85%以上	・堺市学習・生活状況調査 ・学校教育アンケート	年度末	— 年度末に評価	○【全国学力調査】 ・毎日朝食を毎日食べる88.4% ・毎日同じ時間に寝る85.5% ・毎日同じ時間に起きる88.4%	◎とても高いのもっと伸びてくれればと思います。 ・様々な事情を抱えた生徒たちも、様々なかたちで受け入れられるよういんありつつあると知りました。・不登校間 な問題にすぐ良い取組みをしている。全ての教師が担任 であるかどうかの意識を乗り越えてやって更にすすめて ください。
誰一人取り残さない学びを推進し、ステップルームを開設する。			年間欠席30日以上を減少させる	不登校調査	○ステップルームへの登校の他、ユアイルーム、スプリングポート、学サポ等の支援につながっている		○教員の関り等により不登校が解消された生徒がいる。一方新たに30日を超えた生徒もいるが、学校とのつながりは切れることなく居場所も確保できている。	○	
地域連携	小中連携	小中一貫した指導体制の充実	★1小1中の強みを生かした小中連携の推進	各種アンケート調査での肯定的回答が80%以上	学校教育アンケート	年度末	○夏季休業中に小中合同研修(特別支援教育)、小学生の部活動体験を実施。中から小への授業見学(教員)	◎【保護者アンケート】「小6の部活動体験等このような連携は必要だ」の肯定的回答94%	◎部活動体験はすごい大事なので続けてほしい
	地域協働	地域・家庭への情報発信との協働体制の充実	HPや「八下TIMES」を通じて教育活動の現状や成果を発信。地域や家庭と協力した取組を進める。	ホームページへのアクセス数 各種調査70%以上	学校教育アンケート		○HPを充実させ、積極的に情報発信を行っている。地域行事も記事として取り上げている	◎【保護者アンケート】「八下TIMESや学校だより、またHPで学校生活の様子がよくわかる」の肯定的回答90%	◎・HPを見ると生徒の様子が分かり嬉しいです。・引き続き継続してほしい

校長より(年度末)：・R5年度において大きな課題が見られた教科については、放課後学習の充実や習熟度別指導の工夫を重ねた結果、3年間で着実に学力を向上させることができた(チャレンジテストの結果による) また、「学びのコンパス」を活用した校内研修や授業研究を通して、授業改善に向けた教職員の意識が高まり、授業の質の向上につながった。一方で、家庭学習の定着やICT活用率の向上については、依然として改善の余地がある。R8年度に向けては、これらの課題に対し、学校全体で組織的に取り組む必要があると考える。生徒一人ひとりの学びをさらに支えるため、家庭・学校・地域が連携し、より効果的な学習環境の構築を進めていきたい。

学校関係者評価者から(年度末)：・SNSの利用時間が増えていることは家庭でも実感しています。家庭や学校で依存を何とかするのは限界があると思いました。社旗的な仕組みが必要。・前向きで全生徒の表情が良い。目標をもっていると察する。「国語がよくわかる、楽しい」とよく耳にする。・1年から3年かけて課題に取組み大きく向上したという成果がうれしい。・1年間ありがとうございました。